

科目名	仏教と人権Ⅱ					単位	2.0
担当教員	菱木 政晴						
授業形態	講義	開講期間	後期	配当年次	1	授業番号	2411

●授業のテーマ
仏教と女性の人権

●到達目標

テーマをこなすには、仏教の理解とともに、人権とは何か、性差別とは何かの理解が大切であることを心のどこかにおいていてください。

●学習内容(授業概要)

女性の人権を損なう「性差別」とは何であるかということ、主としてマルクス主義フェミニズムの方法において学ぶ。そのことにおいて、性差別とは女性蔑視のことだとする理解は不完全であり、差別解決にはつながらないことを考察する。

また、仏教教典に登場する女性に関連するいくつかの表現をとりあげ、それを批判的に読み解く。

●学習内容(授業計画)

1. イントロダクション、①人権思想とは何か。ロックとカントを読む。②仏教とは何か。ダンマ・パダを読む。
2. 法華経に現れる「変成(へんじょう)男子(なんし)」を読む。
3. 女人五障(にょにんごしょう)とは何か。女人五障と変成男子の関係
4. 性差別とは何か。
5. 生産労働と再生産労働。
6. 労働の搾取。
7. 再生産労働とは何か
8. 性別役割分担とは何か
9. 再生産労働の再分割
10. 浄土教関係文献を読む 大無量寿経。女身厭悪とセクシュアル・ハラスメント
11. 浄土教関係文献を読む 浄土論①
12. 浄土教関係文献を読む 浄土論②障害者の差別とはなにか。障害学に学ぶ。
13. 浄土教関係文献を読む 浄土論註。比喩表現による差別助長
14. 全体のまとめ
15. 試験(小テスト)

●準備学習・事後学習の内容

特に必要ないが、やる気があれば、ナタリー・ソコロフやダラ・コスタらの著作を読んでみてください。なによりも、論理的思考を磨くために、講義内容を覚えるのではなく、講義で提示されたデータを自分で吟味し、自分の論理を構築する練習をする。自分の論理を構築するという自体は、いかなる学習においても求められる。

●成績評価方法・基準

すべて、期末の筆記試験、または、レポートによる評価

●テキスト（必携）
特になし

●参考文献／その他
授業時に指示。

●履修上の注意
特になし。